

## <背景>

要対協の最大限の活用、要対協で検討する感度を上げケースとして扱う意識のハードルを下げるべきといった指摘がなされている。(令和元年6月死亡事例検証報告書)

児相との連携強化、要対協による支援体制強化のため、各区健康・子ども課長が児相課長職を兼務(令和2年4月～)。

各区の支援水準向上、均質化を図るため、各区を訪問、業務実態を把握、課題や改善点等を確認し対応策を検討することとした。

## <実施概要>

8月17日(月)から9月24日(木)にかけて全ての区を訪問

## <対応職員>

児相及び各区の家庭児童相談室業務を所管する課長職及び係長職

## <実施結果(概要)>

<h3>業務概況</h3>	<p>母子保健、家庭児童相談室とも係長職が保健師で相談・連携しやすい。 特に、増員した区では<u>機動力向上、対応ケース数の増等の効果</u>が出ている。 関係機関との協働的な支援では、家庭児童相談室を含め、どの関係機関も体制上の(人的な)余裕があるとは言えず、<u>苦しい状況の中やりくりしている。</u></p>
<h3>児相連携</h3>	<p>個別ケースの支援方針をめぐって、考え方の違いから議論になることがある。 在宅支援に関して、区の子相に対する期待は大きく、特に児相が主管理となっているケースについて、支援方針をより具体的に示してほしい。 <u>児相から区へのつなぎ(見守り依頼等)に関しては、家庭状況、見守り内容の具体的な提示等、より丁寧な引継ぎを望む。</u></p>
<h3>好事例</h3>	<p>特定妊婦に係る支援方針の検討会で、<u>妊娠初期の段階だけではなく、妊娠30週頃を目途に全件再検討している。</u> 他区や市外から転入したケース(移管を受けたもの)全件を、関係職員が一堂に会して情報共有と支援方針の検討を行っている。 在宅支援アセスメントシートについて、個別ケース検討会議に諮るケースだけではなく、<u>継続的に支援を行うケース全件について作成するよう対応を進めている。</u></p>
<h3>課題等</h3>	<p>継続支援ケースについて策定すべき「<u>支援計画</u>」で、短期的な視点での検討はおおむねなされているが、<u>中長期的な視点では十分とは言えない部分があり、標準的な手順等の設定を検討する必要がある。</u> 支援ケースの<u>進行管理方法</u>について、区によってばらつきがみられるほか、資料作成や管理の事務負担が過大になっており、<u>標準化を検討する必要がある。</u></p>
<h3>業務改善 検討事項</h3>	<p><u>業務の基本的な進め方について重大な問題が生じている区はなかったため、業務水準をより引き上げる観点から検討事項を設定。</u> (検討事項の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校訪問(全校実施に向けた検討)</li> <li>・支援計画(特定妊婦出産後の支援方針の再評価、中期的な視点での計画策定)</li> <li>・ケース管理(システムの活用を含めたケース管理簿の作成)</li> <li>・ケース記録(判断・評価等を含めた記録作成等)</li> </ul>

## <今後の展開>

年度後半(1~2月頃)に、再度全ての区を訪問し、好事例に係る取組状況、業務改善検討事項に対する各区の対応状況等の確認を実施。訪問は、来年度も継続(実施方法は要検討)。